

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 全農ふくれん営農総合課)**営農情報****大豆のカメムシ類防除と適期収穫について**

本年産の大豆は、新品種「ふくよかまる」に全面転換し早播きを推進したことや、梅雨明けが 6 月 27 日と早くなったことから、播種は全体的に早まり 7 月上～中旬を中心に行われました。7 月下旬以降の乾燥により、初期生育がやや抑制されたものの、その後は定期的に降雨があり順調に生育しています。

台風の接近はないものの、まとまった降雨がありハスモンヨトウは少ない状況ですが、気温は高い状況が続いており吸実性カメムシ類の発生はやや多くなっています。

今後は、カメムシ類の発生状況を確認し、適切な防除を図るとともに、高品質大豆生産に向け、排水対策の徹底、適期収穫及び汚損粒発生軽減の取り組みを行いましょう。

大豆のカメムシ類防除で注意すべき事項

- ①カメムシ類による子実被害は収穫期まで続くので、必ずほ場での発生状況の把握に努める。
- ②ミナミアオカメムシは例年 9 月下旬～10 月上旬にかけて発生量が急増するので、発生状況には十分注意する。
- ③カメムシ類の防除は、開花期後 25～30 日頃に実施する。また、発生が多い場合は追加防除を行う。
- ④薬剤散布を行う場合には、薬剤が着莢部によくかかるように丁寧に散布する。
- ⑤カメムシ類は広範囲に移動するため、広域で一斉に防除することが望ましい。

表 大豆の開花期（農林試作況）

播種時期	開花期
7 月 1 日	8 月 19 日
7 月 10 日	8 月 23 日
7 月 25 日	9 月 4 日

適期収穫・汚損粒の発生軽減へ向けた取り組み

- ①フクユタカに比べ成熟期が早いので、収穫が遅れないように事前準備を行う。
- ②コンバインによる収穫開始適期は、莢を手で折ると軽くポキッと折れる状態（莢水分 50% 以下、子実水分 18% 以下）で刈り取る。
- ③莢水分の高い朝・夕や露のある時は、絶対に刈り取りをしない。
- ④汚損粒の発生防止のため、青立ち株や大型雑草は、収穫前にほ場から除去する。
- ⑤着莢位置が低いと収穫ロスが多くなり、泥をかみやすく、汚損粒が発生しやすい。着莢位置が低い、もしくは倒伏している大豆を収穫する際は、「リフターキット」を装着し、刈取部への取込みを良くし、収穫ロスの軽減を図る。



写真 リフターキット

以上